

つながり

市同協加布里支部

令和5年11月1日発行

平成10年起

第98号

加布里コミュニティセンター(歌舞里館)

TEL/FAX322-3026

フィールドワーク 2023 の報告

市同協加布里支部では10月13日(金)視察研修を行いました。
視察先は、佐賀城本丸歴史館・佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館です。

事業計画に基づき、10月13日にフィールドワーク(現地へ赴き学習等を行う)を行いました。

今回は、佐賀市内で佐賀城本丸歴史館と佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館の二カ所で研修を行いました。



佐賀城本丸歴史館



最初の研修先は、佐賀城本丸歴史館で、研修したのは佐賀7賢人の一人、江藤新平です。

この方は、民のために走り抜けた法律家で、明治新政府において、初代司法卿に就任。四民平等を説き、当時「民権」という概念がなかった時代に、民の権利を守り公平な裁判ができるようにしました。明治7年佐賀の役に敗れ、鹿児島から高知に逃亡し捕えられ処刑となりましたが、15年後の明治22年に賊名を解かれ、大正5年には、正四位を贈られています。

次の研修先は、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館で、日本赤十字の創設者の佐野常民の業績について学びました。常民は、佐賀10代藩主直正(閑叟)の厚い信頼のもと、精煉方(理化学研究所)で、日本初の蒸気機関車のひな型や実用蒸気船、洋式大砲アームストロング砲の開発も行っています。1867年(慶応3年)パリ万博に佐賀藩を代表して参加し、そこで赤十字の存在を知り、深い感銘を受けて帰ってきました。1877年(明治10年)の西南の役では、日本赤十字の前身となる博愛社を設立。常民の博愛精神を表わした言葉に、「博愛これを仁という、仁とは人をいつくしむこと」があります。この言葉どおり政府軍の野戦病院において敵味方の区別なく負傷者の救護活動を行ない、この活動は日本赤十字社の実現に至ったのであります。

今回、佐賀が輩出した二人の偉人の業績について学習しましたが、現代の我々も大いに学ぶべきものがあると感じたフィールドワークでした。<支部長 谷口 勝則>



佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館



人権映画祭のご案内

日時: 12月2日(土) 13:30開場 14:00開演

場所: 加布里コミュニティセンター 3階大会議室

内容: コール・レインボーの歌

加布里小学校5・6年生の人権標語入選者発表

映画「荒野に希望の灯をともす」上映

主催: 糸島市人権・同和教育推進協議会加布里支部

入場無料
事前申込不要

荒野に希望の灯をともす

〈〈 医師 中村哲 現地活動 35年の軌跡 〉〉



百の診療所より一本の用水路を

企画ベシヤワール会/製作
日本電波ニュース社 2022年

これは「生きるため」の戦いだ。

アフガニスタンとパキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた男、医師・中村哲。

戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設してきた。

なぜ、医師が井戸を掘り、用水路を建設したのか？

その答えは、命を見つめ続けた中村の生き様の中にあり、私たちはこの映画で中村が生きた、その軌跡をたどることとなる。

混沌とする時代のなかで、より輝きを増す中村哲の生き方を追ったドキュメンタリー。

(問い合わせ先) 加布里コミュニティセンター「歌舞里館」 (☎322-3026)